

阿麻美許曾神社（あまみこそじんじゃ）

開運松原六社参りのひとつ。素盞鳴尊・天児屋根命・事代主命を祭神とする。古くは阿麻岐志の宮ともいい、天美の地名の由来となった古社である。創建は平安時代初頭の大同年間（806～809）と伝えられる。10世紀前半に、当時、祈年祭にあたって国家から幣帛をうけることができた由緒深い延喜式内社にも定められた。

境内には、明治初頭まで天美山の山号を持つ神宮寺があった。南および東に建つ門は同寺の山門である。拝殿前の一対の狛犬の台座に「天美山」「阿闍梨快道之代」「文化四年九月」の銘があり、社僧が文化4年（1807）に建立したことがわかる。

手水舎の東側には「行基菩薩安住之地」の石碑が建っている。江戸時代には、同地に奈良時代の高僧である行基が居住していたという伝承があった。神社北西の大和川に架かる橋を行基大橋と呼ぶのはこのためである。

拝殿前には、注連縄石が建っており、若宮春隆宮司が日露戦争後の明治40年（1907）に、天美や現大阪市東住吉区矢田より出征した氏子の人々を顕彰し、名も刻んでいる。

東門の「郷社阿麻美許曾神社」の社号標石（昭和10年）の揮毫は、春日大社（奈良市）の江見清風宮司によるが、これは、明治時代前半に若宮司が春日大社禰宜職から出仕したためである。